

製薬業界にとって不可欠な「治験」分野で 欧州第 1 位を走るフランス

2008 年 5 月 28 日 – 医薬研究の世界的売上は 20%のペースで拡大しており、その市場規模は 154 億米ドル(2006 年)に達している。専門病院における治験の実施は治療プロセスの重要なステップであるなか、フランスは医薬研究の一大拠点として企業の注目を集めている。

例えば、スイスの製薬会社ノバルティスはフランスに研究所を設置、約 2,700 名を雇用しているが、うち 200 名以上が国際規模で行う治験プログラムの専従職員である。このようにフランスは国際治験の分野において高い専門性を持つに至っているが、これは病院をはじめとするフランスの医療・健康分野のさまざまなパートナーとの間で過去数十年にわたり協力関係を築いてきたことが基礎となっている。

フランスには有力な CRO(医薬品開発業務受託機関に加え、Covance、パレクセル、MDS ファーマといった世界をリードする治験実施企業、さらには業界第 1 位の米 Quintiles が研究所を構えている。Quintiles 社に至ってはパリとストラスブールの 2 都市に研究所を置き、合計 600 名が勤務している。

米 Genzyme のバイオテクノロジー関連子会社である Myosix のように、治験の質の高さにひかれてフランス進出を決定した企業も存在する。Myosix はとりわけ、成人の筋肉幹細胞の成長に関する革新的な技術の開発に成功している。

医薬関連の治験においては行政機関との調整が必要だが、これを推進することを目的として、治験管理専門の国立センターである CENGEPS をリヨンに設置。またフランス政府は、さまざまな企業や研究所がイノベーションの気風のもと協力関係を探れるよう、ライフサイエンス専門の産業クラスターを 8 ヶ所に設置している。加えてフランスに拠点を置く製薬企業は、1 年目にかかった研究開発費の 50%が非課税という、ヨーロッパ最高レベルの研究開発税額控除制度の恩恵を受けることができる。

治験は高付加価値型の産業分野であり、製薬業界にとっては不可欠なものであるが、製薬会社、研究所、医師、さらには医療従事者といった関係者全員の協力が必要である。その点フランスには効率的な環境と、最先端の機器を備えた施設が用意されている。いずれも、治験の成功を求める製薬会社にとっては大きな利点と言える。

「フランスの製薬市場は欧州第 1 位、世界全体でも第 3 位の規模を誇ります。フランスの魅力は、WHO(世界保健機構)からも世界トップレベルと太鼓判を押されている質の高い医療制度の存在、そして欧州トップレベルの病院制度の存在が大きく関係しています」と、対仏投資庁長官フィリップ・ファーブルは語っている。

対仏投資庁(略称 AFII)

フランスへの国際投資誘致、進出企業向け支援を担当する国の機関。フランス国内および北米、欧州、アジア各国におかれた在外事務所を結ぶネットワークで機能している。詳細情報はウェブサイトをご参照ください
<http://www.investinfrance.org/Japan/> (AFII ホームページ)

詳細については、以下へお問い合わせ下さい。

在日フランス大使館 対仏投資庁 広報担当 ジェレミ・エルヴェ(Jérémy HERVÉ)

TEL : 03-5733-8208 (直通)

フランス大使館産業技術広報センター TEL : 03-3435-7455